

日本共産党品川区議会議員

**菊地貞二**

週刊区政ニュース第365号

08年10月26日発行

## 定員枠設定校の拡大は実質的な少人数学級

# 学校選択制崩壊へ



この制度は全国の自治体で導入され、学校統廃合の流れをつくりだしましたがこの制度を廃止・縮小する自治体も現れています。23区内では江東区が02年

品川の教育改革「プラン21」に基づいて00年（平成12年度）から実施された学校選択制度が岐路にさしかかっています。



**城南第二（60名・2学級）をはじめ17小学校、9中学校で定員枠**

平成19年度の決算審議が終了しました。日本共産党は一般会計・国保・介護の各会計予算に反対、老人保健会計決算には賛成しました。この審議で強引な教育改革が崩壊の道にあることが明らかとなっています。

定員60名・2学級
品川小学校
伊藤小学校
戸越小学校
城南小学校
城南第二小学校
延山小学校
小山台小学校
小山小学校
芳水小学校
大間窪小学校



定員100名・3学級
第二日野小（日野学園）
伊藤小（伊藤学園）
八潮学園
第三日野小学校
立会小学校
第二延山小学校

に導入しましたが、「地域との関係が希薄化している」として縮小を決めました。10月11日付けの東京新聞に掲載された江東区の校長先生の声がこの制度の矛盾を如実に物語っています。「制度導入理由が『選択肢をふやす』という。これは表面向きで、教員自身の教育実践するに、教員自身が気づいて真面向からぶつかるしかない。それには、学校同

定員140名・4学級
大井第一小学校

士を競わせるより、教員がどれだけ子どもと落ち着いて向き合えるか、その環境整備が大切。」としています。

この校長先生は独自の教育実践で児童を増やしてきたようですが、学校選択制が子どもた



ちのための制度ではないことを物語っています。

## 学校施設の都合？

城南第二小学校を例にして、定員枠について考えてみました。

品川区では「施設に制約がある」。要は学級として使える教室がないことを大きな理由



としています。この学区エリアは高層マンションが建ち並び人口急増地域です。住民基本台帳での入学予定者は、毎年80名を下回ることはない地域となっています。今年度（平成20年4月）の入学者は84名、二年生73名、三年生67名、四年生76名、五年生74名、六年

生62名で全校生徒が436名です。

区の説明では、通学区域内の入学希望者であれば60名をこえても

全員を入学させ、定員枠に満たなければ抽選で希望者の入学を受け入れるとしています。

しかし、この設定はおかしなものです。プラン21で「公立校

といえども区民から選ばれるという社会的位置づけに変え、学校選択制を導入した」といつ

てきました。そのうえで、学童保育をつぶし、すまいるスクールや習熟度別学習などを導入

し、空き教室がない状態を教育改革で作り出したのは品川区自身です。こんなことに



も気がつかなかったとでもいうのでしょうか？

品川区でも、地域との関係が希薄化している問題やいたずらに学

校間の競争をあおることにより、見た目の「成果」を上げることばかりに目を奪われ、子ども一人ひとりやその内面に目を向けるこ

とが出来なくなっている問題が教師や町のみなさんから出されています。

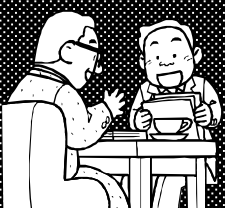
品川の教育改革プラン21を抜本的に見直す時期にきているのではないのでしょうか。

## 無料法律相談会（生活相談は随時）

ところ すすらん通り事務所

日時 次号掲載

午後6時～8時



電話予約は03-3497-4211のフリーダイヤルか電話予約です。